

メイヨークリニック研修に参加した方々からのレター

メイヨークリニック体験記

清水陽一

(国立がん研究センター中央病院 看護部)

1. 自己紹介

2014年の研修当時は、消化器内科、皮膚科の混合病棟に所属して活動するがん看護専門看護師でした。

2. なぜ木村財団のメイヨークリニック研修に行こうと思ったか

米国のCNS(Clinical Nurse Specialist)が病院の中でどのようなポジションでどのような役割を担っているのかを実際に見学したいという思いから米国の病院への海外研修への参加を希望していました。いくつか選択肢がある中で、1)研修期間が長いこと、2)資金面を含めた様々なサポートがしっかりしていること、3)参加される研修生の多様性、の3つの理由から、木村財団のメイヨークリニック研修に決めました。

3. メイヨークリニック研修で学んだこと

(1)メイヨークリニックでのある日の研修状況

朝、5時30分ぐらいに起床し当日のスケジュールを確認した後、事前に予習しておいた情報と質問事項のリストの見直しを行っていました。シャワーを浴びた後、ホテル内のカフェで朝食を済ませて、セントメアリーズキャンパスへは送迎バス、ダウンタウンエリアへは徒歩で、研修先に向かいます。この日はダウンタウンエリアにあるメソジストキャンパスでの研修でした。9月末だと日本の秋(10月～11月初旬程度)の気温のため外は肌寒く、半袖のスクラブにウールのカーディガンを羽織って移動していました。

●7:30～12:00 血液内科/腫瘍内科/骨髄移植科混合病棟

受付で名前と木村財団からの研修生であることを伝えると、担当して下さる男性看護師が笑顔で出迎えて下さりました。とても気さくな方で、私の興味や知りたいこと、研修の目的を聞いて下さり、それに合わせて丁寧に教えて下さいました。ただ教えて下さるだけではなく、ここではこうしているが日本ではどうか等、日本や私が働いている施設にも関心をもって聞いて下

さいました。おかげで、制度やシステム、分業、教育といったことから、使用している機材、看護技術、手順、記録内容といったことまで様々な角度からたくさんのディスカッションができました。

一人の看護師(RN)が受け持つ患者数は昼夜問わず 3~4 名(5 名以上受け持つと看護の質が下がるというエビデンスがあると教えていただきました)ということで、受け持たれていた 4 名の患者への看護の実際を見学しました。具体的には、夜勤者からの申し送り、ベッドサイドでのアセスメント、体位調整、与薬、点滴の準備から投与といった場面です。与薬では内服、点滴を問わずバーコードを用いた認証を活用し、薬剤管理も Pyxis®と呼ばれる薬剤管理システムを使用し、インシデント/アクシデント防止のために様々なシステムを活用する一方で、看護師が『だからこそ思い込みが生じやすく、やはり一番大事なのは、目で見て声に出して指さし確認すること』と仰っていたのが印象的でした。これはこの病棟での見学だけではなく全体を通して、医療安全や質向上のために ICT 技術などのシステムをどんどん活用する一方で、そういった技術を過信せず最終的には人による確認を重視するマインドを個々の看護師が持っていることに感銘を受けました。

空いた時間で、ピック(PICC)チームによる PICC カテーテルの抜去、輸血チームによる輸血の準備から投与管理、事務部のトランスポーターによる搬送等といった場面を見学させていただきました。他にも採血チームや IV 管理チーム、ドレーンチーム等が存在し、日本では病棟看護師や医師が行っているような業務を病院縦断的なチームが担っていたり、環境整備やバイタルサインの測定を(他の病棟では体位調整や食事の介助も)看護助手が実施していたり、日本より業務の分業化が進んでいる点に驚きました。

●13:00~14:00 模範的な専門的実践についてのディスカッション

メゾジストキャンパス内の食堂で昼食を摂った後は、メイヨークリニックの看護管理の専門家からの講義とそれを踏まえたディスカッションを行いました。テーマは、マグネットモデルの構成要素である、『変革的リーダーシップ』『構造化されたエンパワーメント』『模範的な専門的実践』『新知見/イノベーション/改善』『実証的なアウトカム』についてで、人材をどのように育成しエンパワーメントしていくか、看護の質、特にアウトカムをどのように評価するかなど、管理的な視点でお話しいただき、日本との違いについてディスカッションを行いました。非常に示唆に富む講義とディスカッションでした。

●14:30~15:30 メイヨークリニックイノベーションセンターの見学ツアー

デザイナーやクリエイター等の非医療者で構成されたイノベーションの専門チームが常駐しているセンターの見学を行いました。臨床や研究におけるイノベーションにつながるような素材

があれば、プロジェクトを立ち上げ、実現化していくそうです。看護に関連したプロジェクトで成功したのが、『ホワイトボードを用いた情報共有』とのことで、病棟での研修で活用しているところを見学することができました。

(2)メイヨークリニックで学んだこと

本研修で学んだことはたくさんあり、ここでは語りつくせませんが、端的に述べると、理念に基づいて一人一人がイノベーションマインドを持って改善に努める組織文化/風土づくりが重要であるという点です。

(3)メイヨークリニックでの研修期間中、休日は何をしていたか

土日はメイヨークリニックの方がイベント(アーミシュツアーやミシシッピリバーツアー、ハロウィン用のカボチャ掘り、モールオブアメリカという巨大モールへの買い物、看護師の自宅でのホームパーティー等)を計画してくださり、参加しました。それ以外の日は、ホテル周辺の散策やショッピングモールへの買い物に研修生らと一緒に出掛けました。

4. メイヨークリニックから帰って自分の中で変わったことや所属医療機関への還元

組織や自分の中では当たり前になっていて疑問にも感じないようなことでも、ふと立ち止まって、エビデンスや客観的な視点から振り返り、ちょっと変だなというところに気づける(疑問を持つ)ように意識するようになったことが自分の中で一番の変化だと思います。帰国後は病棟での活動の中で上司に相談しながらPDCAを回し、日々の実践の改善に努めています。一方で、自分の気づき(疑問)を人に説明するためには言語化(見える化)がとても重要だと認識し、うまく言語化(見える化)できるようになることが今後の課題です。

5. 英語力をつけるためにどのように勉強したか

英語を話したり書いたりといったアウトプットのトレーニングを中心に実施しました。具体的には、英会話教室に通うこと、英会話カフェに行くこと、英語での日記を書くことです。また、聞き取りの能力を向上させるため、英語のTEDや医療系ドラマを英語の字幕で聞くようにしていました。これは友人から薦められた方法で、聞いてキャッチできた英文と字幕の英文とを比較することでリスニング能力を高められたように思います。

6. メイヨークリニック研修への準備と心構え

研修で効果的な学びを得るために必要なもっとも大切なことは、研修の目的と目標の明確化

だと思ひます。研修前、そして研修先において、目的や目標を英語で伝える機会は多く、平易な英語で誤解なく伝えられるぐらいに具現化しておくことが望ましいと思ひます。また、研修先のスタッフから日本ではどういふ風にやっているのかと聞かれることも多いため、研修先で日本及び自施設でのケアプロセスや看護体制、制度等を簡単に紹介できるように準備していくことでより有意義なディスカッションが出来ると思ひます。